



NURSING

KAGOSHIMA [看護かごしま]



<https://k-kango.jp>

2022
Winter
vol.186



Photo: 元旦のダイヤモンド桜島



Photo: 初日の出と開聞岳

Contents

- ◆ 年頭所感..... 2
- ◆ 事業検討会..... 4
- ◆ 認定看護管理者教育課程を終えて..... 4
- ◆ 活動報告等..... 5
- ◆ 地区だより.....10
- ◆ ナースセンターだより.....13
- ◆ 理事会報告.....16

令和3年度鹿児島県看護協会会員数

保健師	461人
助産師	406人
看護師	11,218人
准看護師	558人
合計	12,643人

令和4年1月20日現在



広報委員会キャラクター
「ニャン護師」

年頭のごあいさつ



謹賀新年

新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策への医療体制の厳しい時期もありましたが、行政、県医師会等各関係団体と連携を図りながら、第4波、第5波を乗り越えることができました。本会は、令和3年度の新型コロナウイルス感染症対策の県委託事業として「看護師等養成所実習補完事業」、県並びに鹿児島市の委託事業として「障がい者施設感染対策支援事業」を展開しております。また、コロナ禍の看護人材不足に、ワクチン接種会場では延べ202名の潜在看護師が再就業しました。潜在看護師の活躍は大きく、第6波に対しても期待されています。

政府が11月19日に閣議決定した「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に、看護職員などの収入の引き上げが盛り込まれました。日本看護協会や石田まさひ

公益社団法人鹿児島県看護協会 会長 田畑 千穂子

ろ参議院議員、日本看護連盟が連携し、全ての看護職員を対象とするよう、厚生労働大臣をはじめ各所に要望活動を行った結果、地域でコロナ医療など一定の役割を担う医療機関に勤務する看護職員にまで対象が大幅に広がりました。日本看護協会は公的価格評価検討委員会に、看護職員を適切に処遇できる賃金体系の導入、医療職俸給表(三)の改善の意見書を提出しました。私たちも未来の看護職のために“現場の声”を届けてまいりましょう。

県民の多くが新しい生活様式に慣れながらも、誰もが新型コロナウイルス感染症への不安のない生活ができる時を待ちわびております。本会は、現場の第一線で活躍している看護職の活動を関係団体とともに支援して参ります。今年も、どうぞよろしく願いいたします。



公益社団法人鹿児島県看護協会 副会長 中重 敬子



昨年は、社会が看護職の必要性を重要視し、感染対策や重傷者の献身的なケアに対し、国民も感謝や応援を届けるという現象が起きた年でした。鹿児島県看護協会もあらゆる手段を取り対応致しましたが、何よりも臨床の現場の医療職の方々の病床

や医療スタッフの確保の臨機応変な対応が地域の方々の不安を最小限にとどめたと思います。看護の底力は無限大と感じました。

今年の干支の寅は「決断力と才知」の象徴と言われていると思います。今年も、体験したことのない現象に遭遇すると思いますが、看護職が一致団結し、知恵を出し素早く決断し、地域の皆様の健康を守り続けたいものだと思います。

また、今回の感染症対策として、改めて在宅療養の必要性も重視されました。入院重視から在宅医療重視に変化していると言えます。少子高齢化に伴う在宅医療の推進も図らなければなりません。看護協会事業としても重要視しています。皆様と共に地域医療を支えていきましょう。



公益社団法人鹿児島県看護協会 副会長 丸目 まり子



新年、明けましておめでとうございます。

昨年度は、全国的に災害であると言われた新型コロナウイルス感染症が本県でも夏から初秋にかけ猛威を振るい急激な感染拡大となりました。

職場や日常生活環境での行動制限等、皆様も大変なご苦労やストレスを抱えながらの生活であったかと思えます。

しかし、看護職としての使命感のもと専門職業人としての知識・技術による感染症対策強化を図りながら「安心・安全な看護」を医療チームの一員として提供し危機的状況乗り越える事が出来ました。

看護・介護等に係る皆様の「看護の力」を改めて実感するところです。

今年の干支は「寅」勇敢で強いイメージがあります。各職場においては、看護人材不足等課題も多くあると思いますが、どの様な難局を迎えようとも「寅」の様に強く立ち向かい皆様が力と心をひとつにし、笑顔で明るく元気な看護職として「看護の力」が発揮できる年でありますように願っております。

今年度も、当協会活動推進に皆様のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

看護職に期待すること



鹿児島県くらし保健福祉部
部長 谷口 浩一

新春を迎えるに当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

鹿児島県看護協会の皆様には、かねてから本県の保健・医療・福祉

行政の推進に対し、御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対応において、潜在看護師の掘り起こしや宿泊療養施設、医療機関における感染防止への対応、クラスター発地域や施設での指導・相談、職員のメンタルヘルス支援、ワクチン接種のための潜在看護師への研修等、多大なる御尽力を賜り、改めまして心から感謝の意を表します。

県としましても、引き続き、感染防止対策をしっかりと講じるとともに、検査体制及び医療提供体制の確保、ワクチン接種の促進等に取り組んでまいります。

さて、人口構造の変化や在宅医療の推進、働き方の多様化など、看護職員を取り巻く状況は大きく変化しており、看護職員の就業の場は、医療機関のみならず、福祉施設や介護施設など地域社会の中で大きく広がっています。

また、保健・医療・福祉の分野における県民の幅広いニーズに 대응していくため、社会の様々な場所で高度かつ専門的な能力をいかに発揮できる質の高い看護職員の養成・確保が重要な課題となっています。

このような状況を踏まえ、県におきましては、昨年3月に「鹿児島県看護人材確保計画」を策定したところであり、同計画に基づき、メディア等を活用した看護の魅力発信や修学資金貸与制度による養成、院内保育所運営費助成による職場定着・離職防止の推進など、総合的な看護職員確保対策に取り組んで参りたいと考えております。

この取組を進めていく上では、地域における看護職員の確保や資質向上を牽引する中核的な組織である鹿児島県看護協会の皆様方、そして現場で従事される皆様方のお力添えが不可欠と考えておりますので、引き続き、格別の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

看護職員の皆様方がより一層活躍されることを期待しますとともに、鹿児島県看護協会のますますの御発展と皆様方の御健勝・御多幸を心から祈念いたします。



鹿児島県医師会
会長 池田 琢哉

あけましておめでとうございます。鹿児島県看護協会の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響下ではありますが、健やかに

新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染が爆発的に拡大し、7月から9月の第5波では本県でも新規感染者が連日200人を超えるなど、猛威を振るいました。看護職の皆様には、医療機関における対応はもとより、県内各地の宿泊療養所やクラスターが発生した際の派遣依頼にもご対応いただき、コロナ治療の最前線でご尽力賜りました。この脅威の中で、人々の命と健康を守るために献身的に医療に従事いただいていることに敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。

さて、団塊の世代が75歳以上となる2025年まであと3年となりました。超高齢社会を迎えるなか、高齢率が高い本県では、各地域で構築された地域包括ケアのネットワークを更に強化・拡充することが求められます。要介護状態や認知症であっても、住み慣れた地域で最期まで自分らしい生活を続けられることは生きる上でかけがえのないことです。在宅医療や多職種連携を推進していく上で、医療と介護のどちらにも理解・知識がある看護職の皆様は欠かせない存在であると考えます。

令和3年3月に策定された県看護人材確保計画によると、本県で看護に従事する人々の数は年々増加しており、過去10年間で1.1倍になっていますが、厚労省看護職員需給分科会における中間とりまとめ（令和元年11月）によると、2025年には本県の看護人材が2,148人も不足すると推計されています。

医療・介護を必要とする高齢者が増えていくことで、看護職に求められることはより重要で複雑なものとなり、その役割は増すばかりです。地域包括ケアシステムの中心的役割を担う看護職の皆様にはぜひ、この鹿児島県で我々医師をはじめとする多職種とともに地域医療を支えていただきたいと思います。

鹿児島県医師会は、引き続き、鹿児島県看護協会をはじめとする関係各位との連携のもと、将来に希望をもてる医療を目指して取組む所存です。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



事業検討会

令和3年12月11日（土）、鹿児島県看護研修会館において例年通り、会長はじめとした執行部、各地区長、職能委員長、常任・特別委員会委員長が参加し、令和3年度の中間評価と令和4年度に向けての課題及び事業計画についての検討会を開催いたしました。

今後、出されたご意見を基に、令和4年度の事業を計画していきます。



令和3年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル終講を迎えて



垂水中央病院
才原 葵さん

私達受講生76名は、10月7日で令和3年度のファーストレベル研修を修了しました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、鹿児島県にも「緊急事宣言」・「まん延防止等重点措置」が発令されました。全国的にも新型コロナウイルス感染症患者が爆発的な増加をしており、受講生の皆様方の施設も厳しい状況であったと思います。この状況下でファーストレベル研修を受講する事には不安もありました。戸惑いながら始まったオンライン研修、看護協会の先生方も初めての試みが多く、大変なこともおありだったと思います。オンライン下で講義・グループワークや演習を行うことは私自身初めてであり、グループワークや演習の際は、思いを伝える事の難しさや、

何か物足りないような、同じ場所に居ない事がこんなにも不便な事を身に染みて感じました。10月4日には受講生の皆様と最後の週にしての初めての顔合わせができ、とても嬉しく思うと同時に初めて会うけど、初めてでは無い不思議な感覚でした。演習グループメンバーの優しく、気さくな声掛けに打ち解けるのに時間はかかりませんでした。皆様の優しさに感謝の気持ちでいっぱいです。

私は今年で3年目になる看護副主任ですが、この研修の受講が決定してから、より一層、管理職とは何か、私が管理職としてできる事は何かを考えてきました。

そしてこの研修で、私は知識不足や経験不足を痛感させられました。しかし、皆様と関わりを持つ中、様々な考えや価値観に触れる事で自分なりに成長できたのではないかと感じています。

明日より受講生の私達は、それぞれの施設に戻ります。この研修で学んだ事を生かし、管理職としての在り方や質の高い看護サービスの提供が出来るような素晴らしい組織作りを目指していきましょう。

最後に、研修で講義していただいた講師の方々、演習支援者の先生方、看護協会の前野先生をはじめ諸先生方、受講生の皆様方に心より感謝いたします。例年の研修より皆様方と触れ合う機会は少なかったですが、一生忘れる事のない経験をさせていただけたと思っています。皆様方との出会いに感謝すると共に、新型コロナウイルス感染症の終息を願い、終講の挨拶とさせていただきます。



令和3年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルを終えて



奄美病院
上原 匡史さん

8月31日にセカンドレベル研修が開講し、2ヶ月が過ぎました。コロナ禍で研修が開催されるのか、集合研修なのか、オンライン研修なのか不安ばかりが募ったスタートでしたが、今、こうやって皆さんと顔を合わせて、研修が無事に終わられたことを感謝しています。

私自身は、研修前にマナブルでの申し込み操作ができず、奄美大島の施設へメールで連絡を頂き、ご指導を受けたのが担当の先生との始まりでご迷惑をかけたのですが、こんな私がこの場に立つなど夢にも思いませんでした。

最初は、オンラインの研修でしたが、グループワーク等もあり、顔の見える関係や互いの意見、施設の取り組みなど様々な意見を交換することができました。オンラインの良さは、感染対策然り、名前と顔がしっかりと覚えられたことでした。

県内のコロナ感染患者の減少に伴い、後半の研修は、対面での研修となり、私はTシャツで飛行機に乗って鹿児島へやってきましたが、朝晩こたつの恋しい季節になりました。もちろん暖かい長袖も購入させていただきました。

受講生とは、初めて会うのにオンライン研修のおかげか、受講生の人間性の高さからか、すぐに打ち解けられ、不安なく研修に臨めました。

見学実習では2カ所の施設の、地域の医療・福祉における多職種、他施設間の連携の実際と看護管理者の役割を学ぶことができました。また、看護管理者として自部署の課題解決に向けて実践計画を立案できました。支援して頂いた先生方のご尽力であるとともに、研修を受講する中でグループ内でも個々がそれぞれの意見を出し合った結果だと思えます。施設を超えて受講生のチーム力も高まりました。この研修に参加できたことと、この年度の皆さんに出会えたことに心から感謝致します。この縁を大切にしていきたいと思えます。

これから私たち30名は、各施設に帰り、学び得た知識を業務の中で実践していく事となります。セカンドレベル研修で習得した理論とマネジメント力を駆使して、鹿児島の看護がさらに熱くなるように頑張っていきたいと思います。



鹿児島地区 小規模訪問看護ステーションと訪問看護みなし指定の医療機関との 意見交換・交流会

鹿児島県の委託を受け、訪問看護師の人材確保・育成及び医療機関を含む訪問看護供給体制の確保を図るため、研修の機会が得にくい小規模訪問看護ステーションや訪問看護みなし指定医療機関を対象に研修や意見交換会・交流会を開催しています。

12月4日は、鹿児島地区の意見交換会を開催し、日頃抱えている課題や今後の取り組みについてワールドカフェ方式でグループワークを行い、大いに盛り上がりました。



鹿児島で暮らそ！ 未来ワーク“かごしま” 進学・就職 応援フェア

本フェアは、毎年1回開催され、中学・高校の早い段階から県内企業や進学先を知って貰い、県内への就業を促進することを目的に開催されています。今年度は、12月12日、かごしま県民交流センターで開催され、ナースセンターとともに、初めて「看護の日・看護週間委員会の委員で参加しました。

相談コーナー、看護体験コーナーともに、多くの来所者があり盛況でした。友達同士、家族連れで参加されており、お互い和気あいあいと看護体験したり、看護職の仕事内容や看護職になるための進路について熱心に説明を聞かれています。若年層やその保護者に看護の魅力発信する良い機会となりました。



6

南薩地区 複雑かつ多重課題解決に向けた事例検討会

近年、虐待、引きこもり、難病など、その背景や原因が複雑かつ多重に絡み合った健康問題が増えている中、日本看護協会は「複雑かつ多重課題解決に向けた事例を支援する事例検討会の手引き」を令和3年3月に作成しています。この事例検討会は、個別課題から個別事例の背景に潜在する地域の課題整理とその解決につなげるスキームとなっています。

今年度は、岩手県、茨木県、徳島県、鹿児島県4地区でモデル的に開催することになり、本県において、南薩地域振興局(加世田保健所)から手上げがあり、12月22日(日中同居家族の介護が得られない神経難病患者支援)、12月27日(キーパーソンが不在のため、精神科病院からの退院支援が進まない事例)に、事例を支援している関係者に集まっていただき事例検討を行いました。

本事例検討会の企画から当日の助言を岡山県立大学大学院保健福祉学研究科看護学専攻 森永裕美子教授にいただき、スーパーバイザーとして、22日は創価大学看護学部 藤田美江 教授、27日は兵庫県豊岡保健所 柳 尚夫 所長にご助言いただき、とても有意義な事例検討会を行う事が出来ました。今後、本スキームに基づく事例検討会を県内で展開していく予定としています。



パラリンピック医療ボランティアに参加して

鹿児島県看護協会 教育部 的場 浩二

東京都お台場で開催される TOKYO2020 パラリンピック、トライアスロン競技場の診療所サポートメンバーとして8月28～29日の二日間看護師として参加しました。

参加するにあたっては、事前にe-ラーニングでオリンピックの歴史と意義、テロ発生時の対応、アンチドーピングに関することなど23項目を受講（数日かかりました）して臨みました。

競技場での役割は競技関係者や競技場周辺の沿道で観戦する方に対する医療の提供でした。初日はお台場に設けられた診療所、二日目は会場周辺のラウンドを行いました。競技場内は無観客でしたが沿道では、大会関係者が「沿道での観戦は避けるようにお願いします。」と終始声をかけていましたが、競技も終盤になると沿道に人垣ができていました。8月の炎天下、熱中症の発生が予測されていましたが、幸いにして我々の出番もなくホッと胸を撫でおろすことができました。ちなみにラウンドでの歩数は3万歩を超えタタタになりました。

COVID-19の新規感染者が多数報じられる時期における参加を迷いましたが、ハンディを感じさせないパフォーマンスを目の当たりにし素直に感動でき、参加して本当に良かったと思いました。

今回、このような貴重な機会をいただき感謝申し上げます。また、大会写真の掲載は制限がありユニフォーム姿のみの掲載となりました。他の写真は看護協会にいらしたときお見せできますのでお声がけください。



原田前専務とお台場にて

2021年度災害支援ナース派遣調整合同訓練

日本看護協会と都道府県看護協会による本訓練は、これまで、広域支援（レベル3）として開催され、本協会は派遣する側として参加してきました。今年度は、被災県を6県設定し近隣支援対応（レベル2）としての訓練であり、本協会は桜島の大噴火を設定し、初めて被災県を体験しました。本訓練の想定や対応について、専門家にご助言をいただくとともに、県医師会や県危機管理防災局と打ち合わせを行い訓練に臨みました。訓練は災害支援ナース要請医療機関を6施設想定し、九州各県から270人の派遣が調整されました。

今回の取り組みで本協会及び医療機関における受援体制等を考える良い機会となりました。

第52回桜島火山爆発総合防災訓練（避難所運営・展示訓練）

令和4年1月8日（土）に鹿児島市立清水中学校で開催されました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を考慮し参加人数を制限しての開催でしたが、昨年度2名のみの参加に比べ、今年度は災害看護検討委員会と本協会職員の10名が参加することができました。住民約50名、清水中学生約50名が2班に分かれ参加し、当協会は鹿児島市の保健師とともに、健康相談や健康教育（エコノミー症候群予防、手洗い指導）を行いました。災害看護検討委員会の委員からは避難所のイメージができ、今後に生かしたいとの声がありました。また、今回、中学生の参加がありましたが、将来の職業選択に看護職を加えて欲しいことも声掛けしました。



中学生への手洗い指導



住民への健康相談

精神科認定看護師によるメンタルヘルス支援事業の紹介



県立始良病院
外 園 広幸さん

精神科認定看護師とは、日本精神科看護協会が認定する看護師で、鹿児島県内にも13名の精神科認定看護師が活躍しております。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、クラスター発生病院や施設から、鹿児島県が行っているクラスター発生施設のメンタルヘルス支援事業へ依頼があり、精神科認定看護師に派遣要請がありました。

メンタルヘルスケア支援には、県立始良病院の他、谷山病院・鹿児島大学病院・メンタルホスピタル鹿児島・今村総合病院・奄美病院の精神科認定看護師が支援に従事しました。感染のリスクのある中で介入して頂いた他の精神科認定看護師の方々にも感謝致します。

クラスター関連の施設や病院スタッフの面接の結果、①自分の対応がクラスター発生の原因になってしまったのではないかと、②自分や家族が感染してしまうのではないかと、③この状況が何時まで続くのか、④以前から抑うつ傾向があり、クラスター発生で気持ちが沈む、不眠や食欲不振になった、⑤誹謗中傷の声に気持ちが落ち込むなどの訴えがありました。ほとんどの県民は責務を全うして下さっている方々に感謝していることを伝えました。面接で話を聞いてもらうことで、気持ちが楽になったとコメントもありました。今後の事を本人とも相談しながら、精神的にフォローが必要な方の情報共有を施設管理者と行いました。

コロナ対応病床で従事する方は、突然の勤務命令や変更に苦慮されている事と存じます。対応してくださっているスタッフの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

我々精神科認定看護師は、感染に注意しながら、クラスター関連施設への派遣要請に応じ、気持ちの落ち込んだ看護師・医療従事者の精神的な支援を行い、社会に貢献するといった使命感を持って、今後も対応をしていきます。



公益社団法人慈愛会
今村総合病院
鶴田 奈緒美さん

① 派遣施設での活動内容

令和3年8月、新型コロナウイルス感染症対応に当たる医療従事者、役場職員へのメンタルヘルスケアの支援依頼があり与論島を訪問させて頂きました。被面接者の大半は過重労働による疲弊と私生活における行動制限により慢性的なストレスを抱えている状況にありました。面接時

に実施した簡易抑うつ症状尺度では軽症～中等症の抑うつと評価した被面接者が数名いましたが、殆どの方は自分がストレスを抱えていることに気づいていませんでした。そのため自身のストレスに気付くこと、対処法を身につけるセルフケアが大切であると考えました。面接ではコロナ禍以前と現在の生活、体調の変化を尋ねました。最初は緊張していた方も話を進めるうちに「集中力が低下している」「やる気が起きない」「眠れない」等話され自分自身がストレスを抱えていることに気付くことが出来ました。娯楽施設の少ない与論島では、島外に出かけることや飲み会がストレス発散であったと多くの方が話されました。しかし、コロナ禍で行動自粛が続き、以前の対処法を行えないことがセルフケアを困難にしていました。そこで新たな対処法と一緒に考えました。例えばアロマや呼吸法を用いたリラクゼーション、趣味活動の再開、ウォーキング等を提案させて頂きました。面接後「話をしたらすっきりした」「笑うことは大切ですね」と話す方もいっしょにコミュニケーションがストレス緩和に役立つことに気付くことができたのではないかと感じました。

② 精神科認定看護師として活動するうえで大事にしていること

私は、急性期総合病院でリエゾン・認知症ケアチームの看護師としてこちらの側面から治療の支援をさせて頂いています。患者さんにとって病院はストレスフルな環境です。特に高齢患者さんは環境変化によりせん妄を発症したり、認知症症状が憎悪する方は少なくありません。私は患者さんの「人生・生活」を見据えたケアを大事にし、入院中であってもその人らしく安心して生活できるよう支援したいと考えています。



職場環境改善委員会

『ちっとばっかい業務改善in鹿児島』



祝!! 最優秀賞受賞 済生会川内病院三階東病棟の皆様

テーマ:「妊産婦さんへの集団指導から個別指導への変革」



※済生会川内病院看護部で、独自のDVDを作成しました!

その他の応募施設紹介

コロナ禍の中、鋭意取り組んでいただいた応募施設の紹介です。
皆様、ありがとうございました!! 働き続けられる職場環境作りへ繋げるために、
次年度の応募もお待ちしております。(県看護協会ホームページ等で報告)



いまきいれ総合病院

「稼働率目標と定時退社のミッション
をクリアするために」



いまきいれ総合病院

「多様な勤務時間変更による残業時間
への効果」



上町いまきいれ病院

「PNS +ゾーニング方式の導入」



鹿児島市医師会病院

「携帯電話転送サービスを活用した感
染対策コンサルテーションシステム
の再構築」

地区だより

始良伊佐地区

教育委員会の活動報告

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、研修会も思うように実施することができませんでした。しかし、開催できた「救急蘇生とBLS」「災害看護」の研修については「実践をとおして学びを深められた」など、参加された方には有意義な研修会になったようです。

今後も、感染対策を行いながら、工夫を重ね、会員の皆様に興味・関心を持って頂けるよう研修会を企画していきたいと思えます。

委員長 小田 さゆり



地域ケアサービス委員会活動報告

地域ケアサービス委員会は、お祭り等のイベント時、「まちの保健室」を開催し、各種測定や健康相談等を行ってまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、2年近く活動できませんでした。今回、活動場所を検討し、伊佐市の温泉施設で、3地区（始良・霧島・伊佐）合同で「まちの保健室」を開催しました。温泉を利用される多くの方に参加していただき、笑顔で帰っていただくことができました。今後も、工夫を重ね、温泉施設やイベント等で「まちの保健室」を開催し、地域の皆様方に役立てるよう活動を継続していきたいと思えます。



委員長 住吉 潤一郎



医療安全ネットワーク委員会活動報告

第1回目の会議は、新型コロナウイルス感染症対策に細心の注意を払い、7月に実施しました。しかし、9月に計画していた医療安全研修会及び会議は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止決定を余儀なくされました。11月に開催された2回目の会議では、誤接続防止コネクタ変更に関する情報共有や医療安全対策地域連携加算における相互チェックの進捗確認を行いました。医療安全ネットワークメンバーは、多職種の集まりであり、多くの知識を得る場でもあります。今後も施設参加を推進し、連携を取りながら安全対策に努めて参ります。

委員長 米森 初枝



川薩地区

教育委員会の活動

第1回教育研修会 令和3年6月19日(土) WEB参加者46名

テーマ:「現場で幸せに長く働くために」久留米大学大学院 稲谷 ふみ枝先生

第2回教育研修会 令和3年7月31日(土)参加者26名 採用後3年未満の看護職を対象

テーマ:「フィジカルアセスメント」川内市医師会立市民病院 救急看護認定看護師 平 順幸先生

第3回教育研修会 令和3年10月2日(土) WEB参加者33名

テーマ:「臨床倫理」～看護職の倫理的課題に対する対応について～宮崎大学大学院医学部獣医学総合研究科医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野教授 板井 孝壺郎先生

第4回教育研修会 令和3年10月16日(土)参加者39名(ZOOM含む)

テーマ:「新型コロナウイルス感染症対策について」川内市医師会立市民病院 CNIC 中野 智子先生
基礎知識から、感染対策の重要ポイント、感染対策の実際、个人防护具のフル着用の実際まで講演していただきました。

人数を制限しての開催ではありましたが、ZOOMでの開催を併用したことで、感染予防の観点から研修会参加の難しかった介護施設等の方々も参加していただくことができ、「久しぶりに研修会に参加することができありがたかった。実際の対応等が学べ、今後活かせる」などの感想が聞かれました。



【今後の研修予定】

第5回教育研修会 令和4年2月5日(土) 13:30～15:00 開催予定

「カルテ開示に耐えうる看護記録」講師:土肥法律事務所 弁護士・看護師 友納 理緒先生

講演会場:薩摩郡医師会病院(20名限定)

WEB会場:済生会川内病院・川内市医師会立市民病院・クオラリハビリテーション病院(計30名を予定)
委員長 山口 麻由美

地域ケアサービス委員会の活動

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い全てのイベントが中止になり、話し合いを重ねていた町の保健室も開催断念となりました。しかし、委員会として何とか地域に根差した活動はできないものかと考え「町の保健室便り」の発行を試みました。各施設の目に触れやすい場所に置き、気軽に見ていただくようにしています。

委員長 尾ノ上 小夜子

医療安全ネットワーク委員会

地区の医療安全について医療安全管理担当者の情報交換を通して参加施設の「医療安全対策を強化することを目的に、年4回の会議と年1回の研修会を開催しています。今年度、新たに1施設の参加を招き、白熱した意見交換ができています。このネットワークを強化しつつ、顔の見える連携を図りながら地区の医療安全の質の向上に繋げていくための活動を続けていきます。

委員長 別保 晴美

かたらん会

当会は、看護管理者の質向上、交流を目的とした会です。今年度は、その人らしく「生ききる」ことを支援するためにACPのポイントをテーマに、宮崎大学医学部医学科 生命倫理学分野教授 板井 孝壺郎先生を講師としてお迎えし研修を開催しました。「ACP」というテーマを通して、医療処置の意思表示と解釈しがちですが、その人がどのように生きていきたいかを理解し、生きることへの支援をする、相手の気持ちを汲み取る、そのためにはコミュニケーション能力の向上が必須だということを学ぶことができました。ACPについては、地域で取り組みを始めているところであり、今回の研修で更に学びを深めることができ、今後の活動に多くのヒントを得ることができました。

地区長 久保田 祥子

南薩地区

教育委員会の活動

教育委員会は、9月に新人看護職研修会で『主体的に課題を発見し、より良い判断と行動』を起こすクリティカルシンキングや『思考を可視化し整理する技術』のマインド・マップ、11月の感染研修会では、新型コロナウイルス感染症対策と南薩地区の介護施設ラウンド報告、12月は心のケアスタッフ養成研修会でカウンセリング技法や倫理的な考え方と対処法について、いずれも事例を通して実践に活かす内容をご講演して頂きました。今年度も、移動時間短縮と感染対策を踏まえてオンライン形式の開催を行いました。これからも南薩地区で看護業務に携わっている方々の看護の質向上に貢献出来るよう企画・運営を行っていききたいと思います。

委員長 千代森 和江

地域ケアサービス委員会の活動

南薩地区地域ケアサービス委員会は、『地域住民の健康保持への貢献』を目標に活動しています。新型コロナウイルス感染症の第5波では、入院や宿泊施設での療養が出来ず、自宅療養を余儀なくされる感染者が増加しました。そこで、家庭内での感染予防策としてチラシ作成に取り組んでいます。この先も感染拡大が予想される中、二次感染を防止するため、家庭内での疑問等を中心に取り入れた具体的な感染対策情報を発信し、地域で感染を拡大させないための活動に取り組んでいきたいと思います。

委員長 福永 こずえ



医療安全ネットワークの活動

現在、南薩地区医療安全ネットワークは、13施設と連携し、インシデント後の改善事項等職員周知の工夫、頻発するインシデントへの対応や協議事項等、医療安全に関わる情報交換・共有を行っています。また医療安全の質の向上を目指し、医療安全研修の企画・運営を行っています。今年度は、医療法人春風会田上記念病院の東 幸代先生を講師に「医療メデイエーション」についてオンライン研修を行い、23名の参加がありました。参加者から「クレームを聞くと一歩引いてしまうが、苦痛や不快に寄り添いながら気持ちを聞くことが必要だと感じました」と反響があり、今後の様々な対応に役立つ研修となりました。

安全文化の醸成を図るためには、医療安全管理者が生き活きと活躍する必要があります。今後も、医療安全管理者が抱える問題の大小に関わらず、気軽に相談できる関係づくりを目指していききたいと思います。

委員長 國生 道代



ナースセンターだより



あけましておめでとうございます。
ナースセンターでは看護職の皆様が自分に合った仕事に巡り合えるよう、復職支援に取り組んでおります。
相談員一同も日々学びながら皆様のお力になれるよう努力してまいります。是非ナースセンターをご活用下さい。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。

**【お知らせ】ふれあい看護体験は来年度より病院等の施設の他に保健所・保健センターも実施施設の対象となります。
応募をお待ちしております。**

潜在助産師再就業支援セミナー

今年もブランクのある潜在助産師と、卒後1年未満の新人助産師との合同研修会を開催しました。
開催日は11月20日～12月25日の間の5日間で、潜在助産師5名 新人助産師12名が参加しました。
受講者の背景も応募の動機も様々ですが、久しぶりに聞く専門的なお話に学生時代を思い出し、輸液ポンプなどの医療機器に緊張しながら触れることで実際の職場での業務をイメージしています。
助産師としての求人は少ない状況ですが、将来を見据えた自分の働き方を考えるきっかけになればと思います。
皆様の研修に対する期待が、十分になえられ、今後のステップアップへのきっかけになることを願っております
次ページの「看護職の働く職場紹介」No5で、セミナー受講後助産師として就業された方のお話をご紹介します。
併せてお読みいただければと思います。

～応募動機から～

- *ブランクが8年あるが来年から復職したい
- *再就職に向けて最新の知識や技術を身につけたい
- *母子保健医療の現場で幅広く活躍できる助産師になりたい
- *最新の医療情報を知り、技術の復習をしたい。求職情報も知りたい。
- *3月に退職するが、助産師として学び直し新生児訪問を含め働き方を考えたい



再就業支援セミナー

～ナースセンターは看護職の「はたらく」をサポートします～

11月24日～12月3日の間の3日間、再就業を希望している看護職を対象にセミナーを開催し、20名が受講しました。
「自分に不足している技術や知識を知り、これから必要な学習内容が何かを確認したい」「再度学び直して不安を解消し、再就業に向けて踏み出したい」「自分に合う就業施設や働き方を明確にしたい」など各々の目標を持って参加し、その達成に向けて講義や演習に真剣に取り組みました。

【受講後の最終レポートより (抜粋)】

- *セミナーを受講して『本当に看護職に戻りたい』という自分の思いを強く再認識した。
- *コロナ禍の医療を支えている多くの医療職者と、自分ももう一度頑張ってみようと思ふと一歩踏み出す勇気をいただいた。
- *セミナーに参加している仲間との情報交換や交流を通して、仲間の思いや高い志に影響を受けて自分も頑張ろうと思った。
- *再就業に全く自信がなかった私が、3日間の講義を受けた後、前向きな自分になった。
- *様々な講義を受けて自分の目指したい看護が少し見えてきた。学び続けて再就業に取り組んでいきたい。



求人・求職登録サイト
eナースセンター

看護職の働く職場紹介 No.5

今回は、潜在助産師再就業支援セミナーを受講後、助産師として転職された原田純子さんをご紹介します。自分の思いをあきらめずに持ち続けていたことが、新たな挑戦に繋がっています。



～私の転職物語～

助産師 原田 純子

医療法人 王産婦人科

〒893-0014 鹿児島市寿4丁目6-44

私は、産婦人科で5年間勤務した後、育児休暇から復帰後に他科へ異動となりました。21年間NICUで新生児看護や入退院支援のほか、管理職として様々なことを経験させていただきました。仕事は充実していましたが、心の内で、「いつか助産業務に戻りたい」という思いがありました。そして、子どもが社会人となったことをきっかけに、自分の夢を叶えるべく一大決心に踏み切りました。しかし、長期のブランクと50代という年齢を考えると、実現できるかとても不安でした。

そこで、看護協会の潜在助産師再就業支援セミナーを受講しました。セミナーは助産業務に必要な幅広い内容が網羅されており、最新の知識と技術を学ぶことができました。

そして退職後、鹿児島県ナースセンターに相談しながら就職活動を始めました。しばらくは住み慣れた鹿児島市内で助産師としての技術を身につけ、自信がついたら地元である大隅で就職しようと計画していました。しかし現実には厳しく、助産師の求人は少ない上に、ブランクや年齢的な問題もあり、就職先はなかなか見つかりませんでした。

ちょうど新型コロナウイルスの流行により世の中が不安定になり始めた頃だったので、「この先どうなるのか、やっぱり自分には無理だったのかな。」と不安な日々を過ごしました。そのような中で、思い切って大隅で就職先を探し、現在の職場に雇用が決まった時はとても嬉しかったです。

しかし、いざ就職してみると、現場についていくことは簡単なことではなく、自分の無能力さに肩を落とす日々でした。その一方で、お母さんと赤ちゃんたちのケアを行い、自分のやりたいことができている楽しさを感じました。院長先生をはじめ、スタッフの皆さんの温かいサポートを受けながら、今、1年4ヶ月経ちました。生命の誕生という幸せな瞬間に立ち合わせていただける喜びを感じる一方で、母児2人の命を預かる責任の重大さに気を引き締める毎日です。知識も技術もまだまだ未熟ですが、お母さんたちが自分の思い描いていた出産・育児ができるよう、これからも努力していきたいです。「遅くても、何かを始めるのに遅すぎることはない」という言葉のとおり、あの時勇気を出して本当によかったと思います。

最後に、もう一度助産業務に戻るチャンスを与えて下さった、看護協会の潜在助産師再就業支援セミナーや鹿児島県ナースセンターの関係者の方々、以前の職場、現在の職場の皆様へ感謝いたします。



～院長先生からのメッセージ～

原田助産師さんは総合病院から当院（個人医院）への転職でした。50代という年齢、初めての土地での再出発に加え刻々と変化する臨床現場での仕事に戸惑う日々が続いていたようです。当院ではプリセプター制度がないために、一つ一つの症例をそれぞれ一緒に担当した助産師と共に振り返ることで知識や技術の再確認をしていただきました。教科書の中の分娩介助と現実の緊張した現場での分娩取り扱いにはギャップがあり、思いどおり進まず悩んだ日々も多かった様でした。しかし持ち前の熱意と日々の努力で、現在では1人で分娩をリードできるようになりました。年齢やNICUでの経験は今やむしろ武器となり、落ち着いた語り口調は患者様に安心と信頼を与えます。ゆっくりですが着実にスキルが上達していく様子はだれの目にも明らかで、慣れた業務に安心している同僚看護師の刺激にもなっています。

当院は産科医院なので連日の業務は多く変化に富み、若い入職希望者がどんどんあきらめていく中、原田さんは同僚からの注意や指導を謙虚に聞き入れ努力してきました。一見当たり前の事ですが、最近では人に教える事や素直に自分を改変していく事ができない人が増えている様に思います。再就職し、自分の目標を持ちチャレンジしていくにはこれらの事を克服していかなければなりません。未だ1年半程ですが、今後有力な戦力となり新入の看護師さんにとっての道しるべとなっていきたいと期待しております。

医療法人 王産婦人科院長 王谷 英仁

訪問看護師養成研修(eラン活用研修)…令和3年度訪問看護師養成研修が終了しました

令和3年5月14日～12月4日まで10日間、21名の方が終了。コロナウイルスに翻弄され、研修スタイルの変化が余儀なくされました。慣れないオンライン研修でのトラブルや研修生との関わりが少なかったなど課題もありましたが、講義や実習を通して貴重な経験と学びがありました。

【研修終了日:訪問看護への想いとこと！】

学びを活かせるように日々精進！😊とにかく楽しかった！

他のステーションを知る事が出来楽しかった

訪問看護のやりがい再認識！これからも楽しく取り組んでいきたい

訪問看護は奥深く、とても楽しいです

「家に戻りたい」を現実にする

これから心こめて支援していきたい
その人の人生に寄り添える訪問看護が大好きです

①真摯に対応していきたい！
②自分の課題を見つけて学んでいきたい
③実習に行き、とにかく楽しかった
④いつの日か『小児専門で…!』
⑤やらなきゃいけない事がたくさんある！

看護士になり30年！まだまだ学ぶ事があるその楽しさを知る

桜島も静かに見守ってました😊

自分の看護に不安があったが、研修を通して自信を持つことが出来た

心機一転頑張ります！😊

同じ、悩み・不安・思いを抱えていることを知る一緒に学んでいく中で、とても心強く、楽しく、学ぶ事が出来た

【離職看護師等届出制度「とどけるん」届出状況】

2015年10月～2021年12月までの届出状況

全国 159,831名 鹿児島県 2,620名
2021年10月の届出(鹿児島県) 10名
2021年11月の届出(鹿児島県) 16名
2021年12月の届出(鹿児島県) 11名



【eナースセンター登録有効求人・有効求職状況】

	9月	10月	11月
求人数(人)	1,084	1,009	962
求職者数(人)	597	600	602
就業者数(人)	91	26	33

鹿児島県ナースセンター

〔看護師等無料職業紹介所46-ム-010002〕
相談日:月～金 9:00～12:00 13:00～16:00
住 所:〒890-0064 鹿児島市鴨池新町21-5
TEL:099-256-8025 FAX:099-256-8079
Eメール:kagoshima@nurse-center.net
ホームページ:https://k-kango.jp/

理事会報告

令和3年度 第5回 理事会

日時：令和3年11月13日（土）13：28～15：45
17名出席

○ 協議事項

- 1 基本方針に関する事項
 - 1) 令和3年度事業中間評価について
 - 2) 令和4年度の重点事業・基盤強化事業について（案）
 - 2 事業推進に関する事項
 - 1) 事業検討会の進め方について
 - 2) かがしま SDGs パートナー推進制度登録について
 - 3 管理的事項
 - 1) 職員の任用について
 - 4 会員支援関係
 - 1) 日本看護協会名誉会員候補者の推薦について
 - 2) 日本看護協会会長表彰者の推薦について
- 報告事項
- 1 基本方針に関する事項
 - 1) 2021年度地区別法人会及び九州地区法人会員連絡会について

2 事業推進に関する事項

- 1) 教育事業について
- 2) 看護職員就業相談事業について
- 3) 看護師養成施設等における実習補完事業について
- 4) 地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業について
- 5) 障害者支援福祉施設等の感染防止のための相談・支援等事業について
- 6) 2021年度災害支援ナース派遣調整合同訓練について
- 7) 記念誌発行委員会について
- 8) 令和3年度中間決算について
- 9) 中間監査結果について
- 10) 第57回献血運動推進全国大会における「血液事業用車両」贈呈式について

3 管理的事項

- 1) 理事会・運営委員会議事録について

4 会員支援関係

- 1) 会員加入状況及び入会促進について

○ その他

- 1) 令和3年12月11日（土）午前10時～ 事業検討会

会員管理担当からお知らせ

【2021年度の会費が未納の方へ】

お手元に会費の振込用紙（コンビニ用）がある場合は、お早めに納付お願いいたします。
口座振替依頼書不備の方は、早急にご返送いただくか、**県協会**までご連絡をください。

【2022年度新規入会・再入会の方へ】 ※入会は随時受付しております。

《会費について》

- 入会金：8,000円（初めて入会の場合）
年会費：12,000円（県協会7,000円 + 日看協5,000円）

【2022年度継続の方へ】

日本看護協会から届いている「継続のお知らせ」に記載されている内容をご確認ください。
自動継続のため、内容に変更がない場合は**提出不要**です。



お問合せ先

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 21-5
公益社団法人鹿児島県看護協会 会員管理担当

TEL：099-256-8081 FAX：099-256-8079
mail：kaiin_46@rice.ocn.ne.jp

編集後記

新年あけまして
おめでとうございます。

- ①とっても
 - ②らっきーなことが
 - ③どんどんおきて
 - ④あわせな一年になりますように
- 広報委員一同

写真提供、ご意見、ご感想、または企画に対するご要望などお待ちしております。
抽選で本県協会員の方5名様にクオカード1,000円分差し上げます。



看護専門職として
社会に貢献しよう



会員の増加と福祉の
向上のため活動しよう



公益社団法人
鹿児島県看護協会
Kagoshima Nursing Association

鹿児島市鴨池新町 21-5
TEL.099-256-8081 FAX.099-256-8079
URL <https://k-kango.jp>
E-mail kakankyo@orange.ocn.ne.jp